

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

専攻	学年	ページ	科目名
PT・OT	1年	35	解剖学演習
PT・OT	1年	37	解剖学実習
PT	1年	49	トランスレーショナルセミナー I
OT	1年	54	トランスレーショナルセミナー I

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa03						
●			●									
科目名	解剖学演習				単位 認定者	大和田宏美		試験（筆記）	60 %			
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	試験 （レポート）	40 %		
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			%		
				授業形態	演習	授業回数	15 回			%		
授業の概要	本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨および筋の名称を実際の骨模型および筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるように学修する。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、骨模型および筋模型を通してイメージできるようにする。 骨格系・筋系・末梢神経系の位置関係を学修し、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。 											
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。理学療法及び作業療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。											
回	授業計画				準備学修			担当				
1	骨模型：骨の位置関係、連結				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美				
2	骨学演習1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨							大和田 宏美 大橋 孝子				
3	骨学演習2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨							大和田 宏美 大橋 孝子				
4	骨学演習3：上肢骨③手部							大和田 宏美 大橋 孝子				
5	骨学演習4：胸郭・脊柱（頸部）							大和田 宏美 荒牧 隼浩				
6	骨学演習5：脊柱（胸部・腰部）							大和田 宏美 荒牧 隼浩				
7	骨学演習6：下肢骨①骨盤、大腿骨							大和田 宏美 大橋 孝子				
8	骨学演習7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部							大和田 宏美 大橋 孝子				
9	筋模型：筋の位置関係、浅層筋および深層筋の位置関係							授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
10	筋学演習1：上肢の筋①上肢帯の筋										大和田 宏美 大橋 孝子	
11	筋学演習2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋										大和田 宏美 大橋 孝子	
12	筋学演習3：体幹の筋										大和田 宏美 荒牧 隼浩	
13	筋学演習4：下肢の筋①骨盤帯の筋										大和田 宏美 大橋 孝子	
14	筋学演習5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋										大和田 宏美 大橋 孝子	
15	腕神経叢、腰神経叢の位置関係										大和田 宏美 大橋 孝子	
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』医学書院											
参考文献	『解剖学トレーニングノート』竹内修二著、第5版 医学教育出版社 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』											
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制 自己学修用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）を準備する。 授業内課題はスケッチブック・レポートの提出になる。 スケッチブックは、骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。 スケッチブックは、それぞれ骨学・筋学講義終了後に提出し、採点后にスケッチブックを返却する。 骨および筋について、学修できているかについて口頭試問で評価する。											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
	●		●		

科目ナンバリング
ReFa04

科目名	解剖学実習				単位 認定者	伊橋光二		評価の 方法	試験（実技）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位			%
	O T	必修	1年			授業時間数	40 時間			%
				授業形態	実習	授業回数	20 回			%
授業の概要	理学療法および作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法および作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。									
到達目標	1. 身体各組織、器官の解剖学的名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。 2. 体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管など身体組織を触診できるようになる。 3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断・治療に正しく応用できるようになる。									
学修者への 期待等	身体構造や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体形態的異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げることができるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学の内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	解剖学実習概論と各組織の触診方法				①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認				伊橋 光二 鈴木 裕治	
2	骨・関節の触診①肩複合体				①解剖学の肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
3	骨・関節の触診②上肢帯・上腕・前腕・手部				①解剖学の上腕・前腕・手部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
4	骨・関節の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤・大腿部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
5	骨・関節の触診④下腿・足部				①解剖学の下腿・足部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
6	骨・関節の触診⑤体幹				①解剖学の体幹の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
7	骨・関節の触診⑥全身				①解剖学の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
8	軟部組織の触診①肩複合体・上肢帯・上腕				①解剖学の肩・上腕部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	軟部組織の触診②前腕・手部				①解剖学の前腕・手部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
10	軟部組織の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当
11	軟部組織の触診④下腿・足部	①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
12	軟部組織の触診⑤体幹	①解剖学の体幹の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
13	軟部組織の触診⑥全身	全ての軟部組織の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
14	血管、神経、その他身体組織の触診	①解剖学の血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
15	触診の理学療法への応用	①学習した触診部位、触診の流れの確認 ②学習した検査・測定の復習（30分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
16	解剖学実習における倫理	①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	人体解剖実習①上肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
18	人体解剖実習②下肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
19	人体解剖実習③体幹・臓器	①第16回（倫理）の確認（5分） ②全ての骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
20	総復習	全ての骨・関節・軟部組織の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
教科書	『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』メジカルビュー社 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』メジカルビュー社		
参考文献	『骨格筋の形と触察法』大峰閣 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖』医学書院 『カラー版 筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版株式会社 『基礎運動学』医歯薬出版株式会社		
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制（16～19回は3クラス合同） 第17～19回は学外での人体解剖学実習		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング								
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01								
	●	●	●	●										
科目名	トランスレーショナルセミナー I				単位認定者	大和田宏美 伊藤大亮		授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	%					
						授業時間数	30 時間		%					
				授業形態	演習	授業回数	15 回		%					
授業の概要	<p>トランスレーショナルセミナーI～トランスレーショナルセミナーIVは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。</p> <p>トランスレーショナルセミナーIでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。</p>													
到達目標	<p>1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける</p> <p>2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする</p>													
学修者への期待等	<p>大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、教員の話の聞いたりいろいろな考えに触れてほしい。</p>													
回	授業計画				準備学修									
1	【1～4年生合同】 理学療法を学ぶ意義				理学療法とは何かについて考えてくる(概ね30分程度)。									
2	【1～4年生合同】 理学療法を学ぶということ ディスカッション													
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。(概ね30分程度)									
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには													
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは				授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場													
7	【2専攻1年生合同】 理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)													
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール													
9	大学生活での学び②講義の受け方													
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力													
11	大学生活での学び④情報リテラシー													
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用													
13	大学生活での学び⑥心の相談室													
14	大学生活での学び⑦ハラスメント													
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活													
教科書	適時、資料を配付する。													
参考文献	必要に応じて紹介する。													
備考	<p>【担当教員】 網本 和、原 和彦、伊藤 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩</p> <p>1, 2, 4, 5, 6, 15回: PTOT別 3, 7~14回: PTOT合同</p>													

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング								
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01								
	●	●	●	●										
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位認定者	外里富佐江		授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位		%					
					授業形態	演習	授業時間数	30 時間		%				
							授業回数	15 回		%				
授業の概要	<p>トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。</p> <p>トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、作業療法を知ること重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。</p>													
到達目標	<p>1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける</p> <p>2. 作業療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする</p>													
学修者への期待等	<p>大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。</p>													
回	授業計画				準備学修									
1	【1～4年生合同】 作業療法を学ぶ意義				作業療法とは何かについて考えてくる (30分程度)									
2	【1～4年生合同】 作業療法を学ぶということ ディスカッション													
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる (30分程度)									
4	カリキュラムについて 作業療法士になるには													
5	グループワーク①自己紹介 作業療法とは				授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②作業療法士の活躍の場													
7	【2専攻1年生合同】 理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)													
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール													
9	大学生活での学び②講義の受け方													
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力													
11	大学生活での学び④情報リテラシー													
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法													
13	大学生活での学び⑥心の相談室													
14	大学生活での学び⑦ハラスメント													
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活													
教科書	適時、資料を配付する。													
参考文献	適宜、紹介する。													
備考	【担当教員】 外里 富佐江、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 1, 2, 4, 5, 6, 15回：PTOT別 3, 7～14回：PTOT合同													
※以下は該当者のみ記載する。														
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)														